

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

#### 前回からの主要変更点

	前回 (平成 30 年 5 月)	今回 (平成 30 年 8 月)	
鉱工業生産	持ち直しの動き	持ち直し	

#### 1. 生産及び企業動向

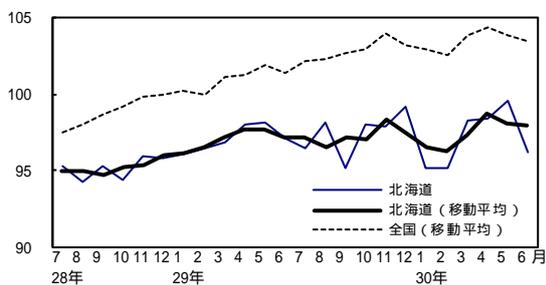
(1) 第一次産業は生乳生産、主な水産物の生産額ともに前年を上回っている。

4 - 6 月期には、生乳生産は総量では 1,016,579t と前年比 2.7% 増となり、乳製品向けが増加した。主な水産物<sup>1</sup>の生産額 (主要 9 港) は、たこ類等が増加したため、前年比 38.3% 増となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直している。

4 - 6 月期には、食料品は、増加した。パルプ・紙は、包装用紙が前期の生産設備トラブルの反動増もあり増加した。電気機械は、減少した。鉄鋼は、前期に設備更新工事があった反動から普通鋼棒鋼等が増加した。輸送機械は、生産ラインの増設により自動車駆動伝導装置等が増加した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
食料品	24.2	0.6	0.6	2.4	3.4	2.4
パルプ・紙	11.9	2.3	5.6	0.3	3.7	5.2
電気機械	11.7	4.4	1.3	3.5	6.2	6.6
鉄鋼	7.5	1.4	1.7	4.5	5.0	8.2
輸送機械	7.0	7.4	8.0	1.3	3.9	1.4
鉱工業	100.0	2.1	2.0	0.2	1.2	3.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 4 - 6 月期、6 月は速報値。

(備考) 1. 22 年 = 100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

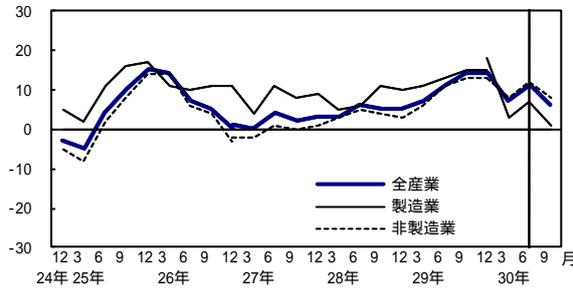
2. 全国及び北海道の大線は中心 3 か月移動平均、  
直近月は 2 か月平均。

<sup>1</sup>主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうだら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(3) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

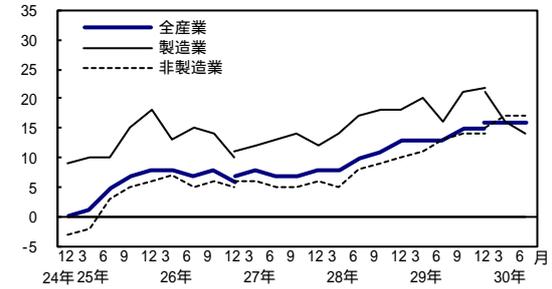
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



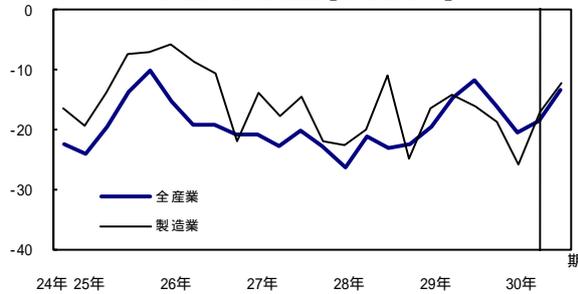
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年9月は予測、26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



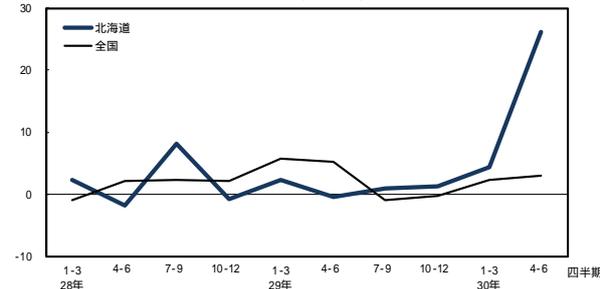
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「2020年の東京オリンピックに向けての需要が活性化している(家具製造業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前期比)の推移



(備考) 1. 季節調整値。

2. 30年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	29年度実績	30年度計画
全産業	12.3 ( 6.8)	7.1 (1.3)
製造業	41.6 ( 2.2)	8.8 (9.6)
非製造業	0.5 ( 9.3)	6.2 ( 2.9)

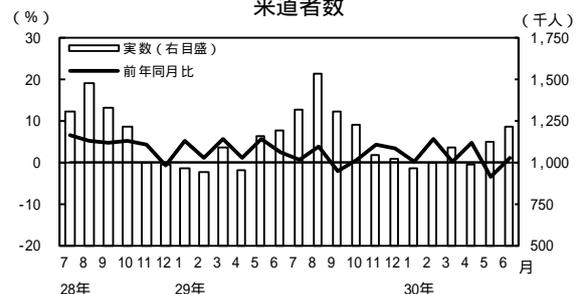
(備考) 1.( )は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2. リース会社対応ベース。

(5) 観光は増加している。

来道者数は、航空機の利用者増から増加した。

来道者数



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前年比0.9%増、5月は同2.6%減、6月は同2.4%増となった。

百貨店・スーパー販売額

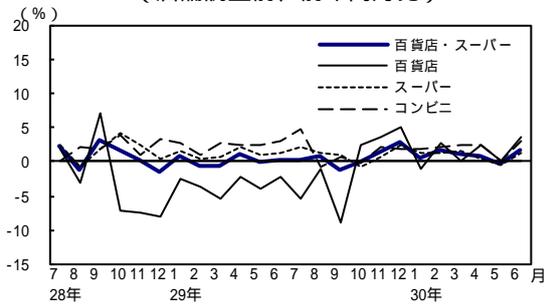
百貨店は、4月は、飲食料品は前年を下回ったものの、衣料品、身の回り品、その他は前年を上回った。5月は、衣料品、身の回り品、飲食料品は前年を下回ったものの、その他は前年を上回った。6月は、飲食料品は前年を下回ったものの、衣料品、身の回り品、その他は前年を上回った。

スーパーは、4 - 6月期は、主に飲食料品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「ホテル業は外国人観光客が好調なこと等稼働率が堅調に推移しているようだが、他業種は軒並み業績が低迷しており、活況が感じられない (タクシー運転手)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



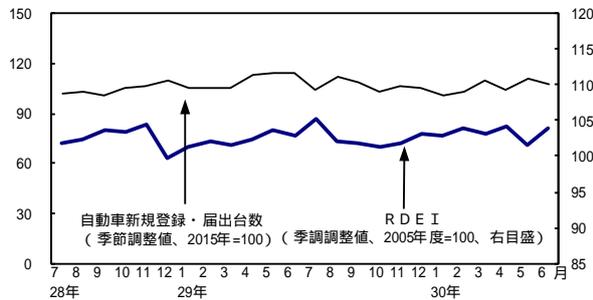
	30年4-6月	30年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.2	0.9	2.6	2.4
百貨店・スーパー(*2)	0.7	0.8	0.4	1.8
百貨店(*2)	2.2	2.6	0.2	3.7
スーパー(*2)	0.4	0.3	0.5	1.3
コンビニ(*2)	1.9	2.5	0.2	3.1
乗用車(*3)	5.6	6.2	1.7	8.0
(季節調整値)(*3)	2.4	5.9	6.6	3.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))

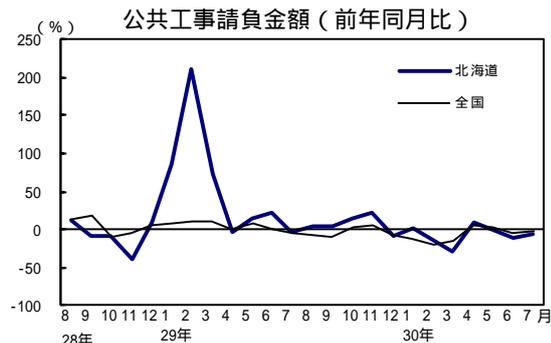
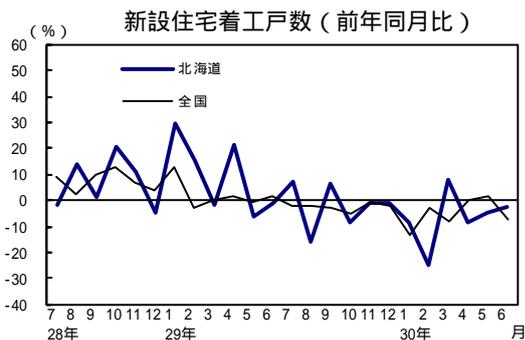
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は30年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

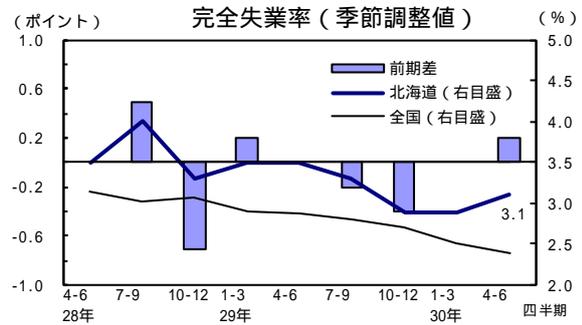
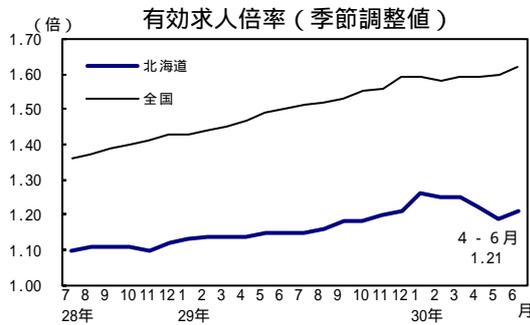


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [雇用関連 (現状)]

「有効求人は2か月ぶりに減少、新規求人は2か月連続して減少しているが、求人事業所数は増加しており、人手不足が続いている (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年7-9月	10-12月	30年1-3月	4-6月	30年7月
倒産件数	59	65	65	62	18
(前年比)	20.3	3.2	17.7	16.2	21.7
負債総額	138	385	120	60	16
(前年比)	80.3	449.8	21.0	28.4	74.0



景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

